

令和3年度 嘉瀬川・六角川・松浦川学識者懇談会 議事概要

日時：令和3年9月30日（木）10:00～12:00

場所：WEB 会議方式

【出席者】

大串委員長、押川委員、加藤委員、古賀委員、後藤委員、重藤委員、滝川委員、田島委員、山西委員、山本委員

【規約案等について】

○ 規約については、規約（案）のとおり了承され、令和3年9月30日（改定）より施行となった。

【要旨】 ■：委員 ○：事務局

1. 嘉瀬川水系河川整備計画の点検について（資料-3）

1) 質疑

■今年の長雨が降る前は嘉瀬川ダムの貯水率が低かったが、もし貯水率が高かった場合に、今回の洪水はどうなっていたのか。

○貯水率が高い場合については、最近では事前放流ということで、降雨の予測をして治水に使える容量を確保してから洪水を迎える対策をしている。

■国道323号と国道263号の囲まれた箇所で河川が氾濫しかけていた。貯水率が高い場合の影響はどうなのか。

○事務局として詳細な場所の把握が出来ていない状況なので、その場所を調べさせていただいて貯水率が高い場合のシミュレーションを実施し後日回答を差し上げます。

■資料-3のP9～12は「社会状況の変化」とあるが、通常我々が生活している人間社会の状況の変化と捉えてしまう。ここで説明されているのは社会状況ではなく気候変動に起因する、河川環境などの変化というものを対象としている内容である。社会状況という言葉を変えた方が良いと考える。

○気候変動によって社会状況が変化する部分もあるし、気候変動に関係なく変化する社会情勢の変化の部分もあり、言葉的には「気候変動の影響」や「社会情勢の変化」などと、それぞれ理由があると考えている。ご指摘の意見を踏まえ内部で検討します。

■P12で強靱性という言葉は非常に頑丈な物を作ってハードで抑えるという意味合いが強い。ここでは国土強靱化とは少し意味が違ふと考えるので、言葉を選んでもらいたい。これはトータルとして考えるとグリーンイノベーションあるいはグリーンリカバリーといった概念と整合性を取って頂きたい。

○事務局として強靱化の言葉の中には、物事にしなやかに対応という意味も含めて、トータル的に使用している。組織として強靱化という言葉を使用しているが、ソフト的な対応も含まれて

いる。誤解のないようにしておく。

■嘉瀬川において、昭和 38 年以降において、なぜ整備計画規模の洪水が発生していないのは何故なのか、教えて欲しい。六角川では発生しているのに。

○災害はどこでも起こりうるものであり、今回、たまたま嘉瀬川流域で起こっていないだけでかもしれない。一方で、線状降水帯の発生の仕方を見ると地形が関係しているかもしれない。また、海面水温が高く、六角川の方が海に近いことも影響しているのかもしれない。

■資料に書いておくと良いのでは。

■嘉瀬川において大きな洪水が発生していないのに、今後どのような対応を考えているのか。

○災害はどこでも起こりうるため、降雨が増えることも踏まえ対応したい。また外水被害については以前と比べ発生しにくくなったが、内水被害は嘉瀬川でも頻繁に起こっておりそれらを踏まえ流域全体で行う流域治水を進めていきます。

■まとめに書いておくと良いのでは。

■懇談会の議論の範囲を教えてください。気候変動であれば外力の話をしないといけないと思うが。

○点検なので、今実施している整備内容についてこれで良いかという意見をもらいたい。嘉瀬川は災害が起こっていないかもしれないが、令和 8 年には計画の見直しを行うため、事前に見直しを行う際の視点などの意見をいただいてもかまわない。

■流域治水等、気候変動を踏まえて計画の議論するのであれば、リスク等の資料が必要で次の議題なのかと考えている。ひとこと言うと流域治水は治水に軸足が置かれているが嘉瀬川ではそれだけで良いのか気になる。嘉瀬川では 2 年に 1 回の頻度で濁水に関する対策が行われている中で、治水だけではなく利水、環境も踏まえる必要があるのではないかと。

○整備計画の点検は、あくまで今やっていることに対する内容に対する審議となります。ただし、この会の中では、それ以外にも広く意見はいただきたいと事務局は考えています。

■平成 17 年度からの「新しい水質指標による水質の評価」は平成 21 年に国交省から「今後の河川水質の管理の指標（案）」が示されているがこれを踏まえた資料なのか？

○確認し回答する

■嘉瀬川について、近年水害は起こっていないとあるが、八田江等では内水被害が生じているためこれらの対応も行ってほしい。

○事業主体の関係はあるが内水にも取り組んでいきたい。

2) 点検結果

資料の修正は必要だが、嘉瀬川水系河川整備計画に基づいて、引き続き河川整備を実施していくこととする。

2. 嘉瀬川直轄河川改修事業の事業再評価について（資料-4）

1) 質疑

■P3 の過去の災害実績で既往最大の S28 が書いていないがなぜか？書いておいてほしい。

○昭和 28 年洪水も記載します。

■基本方針の氾濫は外水のみか、内水も考慮されているのか？

○氾濫シミュレーションについては外水のみ結果であり内水は含んでいない状況です。

■今後は内水も含めて検討していただければと思います。

■整備計画規模の $1500\text{m}^3/\text{s}$ と基本方針規模の $2,500\text{m}^3/\text{s}$ の意味は？

○基本方針は 100 年に一度の確率で起こりうる洪水で基本高水流量として $3,400\text{m}^3/\text{s}$ となり、その流量を嘉瀬川ダムで $900\text{m}^3/\text{s}$ カットし $2,500\text{m}^3/\text{s}$ としています。整備計画は約 30 年に一度の確率で発生する洪水であります。

■今では 1/30 で十分という考えで整備計画を進められているのか？

○将来的には 1/100 を目指すが、今は段階的に整備を進めるという意味で 1/30 で整備を行っています。

■将来的に 1/100 の整備を行うそれまでの間はどのようにするのか？1/100 を目指すハード対策が足りないものについては住民に事業の進捗状況やリスク対策、危険度評価の周知を行うべきだと考える。

○地域との防災に関する勉強会等で、その都度、伝えていっている。

■B/C が 1 よりも小さい場合でも、付随的な効果（電力等）を加味すると便益が増えると思うが、B/C の考え方を広くとらえることができればよいと思う。

○考え方については全国的なやり方に従っている。

■P5 の令和 8 年度にはどのようなようになるのか？

○整備計画メニューが完成すれば、残事業の B/C は 0 になる。最後残ったところの残事業の B/C は数字的には 1 を切るかもしれないが、地元の首長さんからの要望も出ているため事業を進めていく必要があると考える。

■田舎特有の B/C も地域の発展を目指すためにもあって良いのでは？

■田舎特有の B/C の話に関連して、いろいろな事業を行う場合、田舎では B/C が 1 以下となる。地域係数を設定しても良いのでは？

○こういった意見を頂けると事務局としてもありがたい。

2) 事業再評価結果

嘉瀬川直轄河川改修事業は、引き続き事業を継続することで了承する。